

社会実験の概要

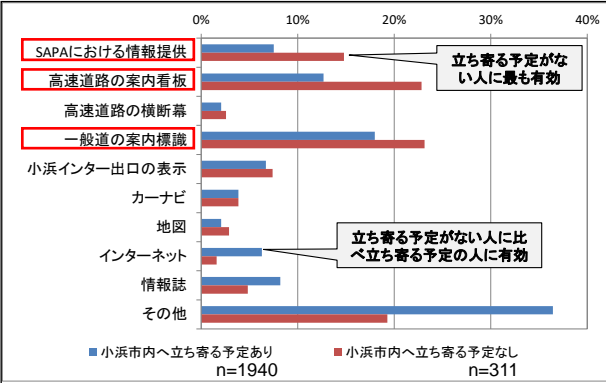
期間：平成26年11月1日（土）～平成26年11月30日（日）

内容：

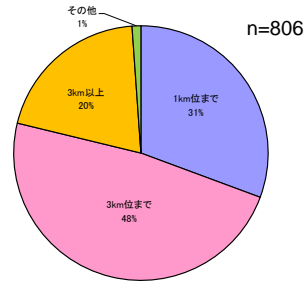
1. 高速道路上での道の駅への案内方法の有効性の検証
2. 高速道路・高速道路上の横断幕、看板設置及びSA・PAでのパンフレット等の配布
 - ・アンケート調査による、道の駅への有効な案内方法の検証
 - ・小浜IC及び道の駅の実験期間中における利用台数、客数の増減調査
3. 利用者への有効的な情報内容の検証
 - ・小浜IC直近のSA・PA等に仮設の社会実験スペースを設置
 - ・道の駅やその周辺施設等の情報をパンフレットで提示し、アンケート調査を行い、有効的な情報内容の検証
4. SSA内の移動経路、利用場所の検証
5. 高速道路利用者が求めるSSAのサービスレベルの検証



実験結果

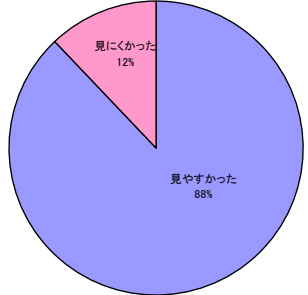


高速道路上での案内による道の駅への誘導には一定の効果があり、高速道路の案内看板、SA・PAにおける情報提供も有効。案内看板の大きさは、改善の余地がある。

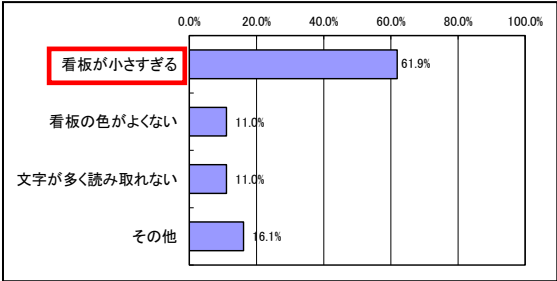


高速道路IC直近に道の駅があれば立ち寄りたいと思うか

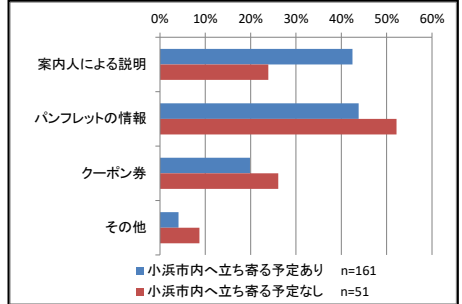
道の駅への立ち寄るきっかけとなった情報



案内看板の見やすさ



看板が見えにくかったと感じた理由



SA・PAで実施した情報提供のうち道の駅へ立ち寄るきっかけとなった提供方法

小浜市内へ立ち寄る予定が無かった人に対して、「パンフレットの情報」「クーポン券」による情報提供が有効。また、高速道路直近の道の駅への需要は高い。

本格実施に向けた課題

- ・三方五湖で継続して情報提供(案内人+パンフレット)を行うことが効果的と考えられるが、三方五湖PA等の高速道路上における継続的な案内所開設に向け、高速道路株式会社との調整が必要である。
- ・SSAとして要求される機能やサービスを具体的に確立し、本線上の「サービスエリア」と誤認されることが無いように注意を払いながら、そのイメージを広めていく必要がある。
- ・高速道路上での案内看板・横断幕による情報提供については、関係者間の調整が必要である。また、案内看板は、実験期間中の簡易な構造対応とした為、その大きさが見づらいという意見も見られたため、構造等も含めて調整が必要である。